宗旨雑記

上

A00
6455

A00
6455

427

宗旨雑記上目録

一 倶舎宗
二 成實宗
三 律宗
（以上三宗）教主劣應身小釈迦

四 三論宗
五 法相宗
（以上二宗）教主大釈迦

六 花厳宗　教主臺上盧遮那報身釈迦

七 禅宗　教主釈迦

八 浄土宗　教主阿弥陀

東京帝國大學圖書印
B 23475
000452984 8

宗旨雜記上

一夫於天竺釈尊一代經律論結集梵本其數無量且法華一部尚一萬八千三百八十巻七十萬六百五品也況一代經律論乎復於加賊後律論耶佛法傳来震旦國判釈如来一代教其師雖繁以天台智者大師為最（其意趣有之）今依天台所判聊述之者立五時八教判釈東流一代聖教五時者一華嚴二阿含三方等四般若五法華涅槃也八教者三藏教通教別教圓教（此ヲ云フ化法ノ四教ト）頓教漸教不定教秘密教（此ヲ云フ化儀ノ四教ト）華嚴經佛成道最初對厚植善根大機影現實報土相以盧舎那身形三七日説別圓二教就大小乗機感見初分後分長時等不同有之

阿含經佛赴波羅奈國鹿野苑十二年間説四阿含等經正化声聞縁覺二乗傍化菩薩単説小乗三藏三藏者修多羅毘尼藏阿毘曇藏是小乗之經律論也

方等經四教共説弾訶二乗偏沉空理不進大乗寄敗種破石譬斥永不成佛方等部内廣摂維摩思益楞伽楞嚴三昧金光明勝鬘觀經阿弥陀經大日經等諸經

般若經説通別圓三教於霊鷲山給孤獨園竹林

四日村古半お様より付りの拾芝の御返事より
たく白米を御もらいしもの大分よろしくお米
其まくなほ一やりたるに違ひなくてなぜ直
りしのかんじく町様御中にてされ御行
の御星さんといふあるお説をさつし出し
其や承知中の明日まで雪ならば
まちなれどなを〳〵
二日
拝

う御出訳
申人一同おじと
路石の付小池
いやで立て
れ

引續き雪ふり候ハ左様ならバいつれの年も
丁寧此段先ハ六さやう存〆の芝木持参御ハ以テ
恃し大〆たまりぬかとおひえ千坂出かけまかり
宅母ちまし申とも不来ひて箱し一向たしかま
十之様左にえりの品々御尊西洋の請にまで
来り候より無論人捜索とも仕りかね了りれ

四日　拙村

兄上様

拙

とんと那はちり申候
難しく存候まゝ○
やまのはな見候年々
申請「差出し日数
恐々。
さて頓申もしり
来り候四十日
候とも一もよ申
よし出来其候に

これは拂出のためなり
となるの深三
なれ□卒然御座候
ついてハ新出上ケ候ニ
[illegible]すりの□はらく
つくりまいらせ一筆こやし
其の拙き[illegible]
林

なや御れ候由ト承り候ニ尤難うされ候の華
子常地ニて承り候ニ定めつハ定ま哉の拙きため 御
いつれ乃見苦しく候故わさとさし上不申候 程ニ出候
金とは申なからの拙きは[illegible] 程ニ申候
の晩より雪ニて白くなりてよりの[illegible]
の[illegible]の[illegible]よろしく[illegible]
言[illegible]
林
尾上様

二月一日紺法出女桂見仕舞の芝居は自分もたまたま
ゆかさらんも妻のりくと邪魔すべき考をせし
に若し事ありて例年の芝居を見ざりしとて
菓子を持ちすゝめやきもち焼きて一両と申
つきの身の狂言は人下巻の初の段目中しかし但し
株目を見きくれずやうやく評判を聞く時分
賞しけり然し狂言もかゝる評判し株石
は大当りと申事は振合劣り候は僅し
幸れ旦那さん一言とも惜く哀えられ事ゆゑ
難古といひ事はならぬ事ありし芝木家にて

あらざりしは仕方なくり
一番狂一つ写本たち会を募
のつぎれと申事すまさる事
候し自分は八十四をつまね
なされし由同家より申しあ
れると存す博任者のは服
一年中の前文ときのと存
候は芸の人とよりて狂言を
日拍
ね

人を評するは易く自分にあやまちなきやうすれは
難きものと存じ候 尤も私に於て右同人をよくほめき
候も少しも言之候 ○於萬此分のあるものは一つもあ
まり無之候
三十一日夜
玉上様
村

いけれども御苦労多かるべし
一 永友健（イウケン）（小金井と同じ位の学者
わたくしやう中来居り 学問の分
注意すれば好いこと存じ候
第一一人切りの事に候 ○
○白鳥（彦之助）事此
御前にて付出候（一両）ずつ宛まわり
（生徒一同より）出し候
村

好にも國史大系へ
国やす〇明後日
弟子と深山和尚居
生乱のクワ[illegible]ではなれのは
日和好ろしまゝより
拝

十五日の御書状並於菟の臨時試験の一包も着いたし候
今汁の事一々承り候 福寿ミ福富と書きし由 係程様
ばけ居り候こと存じ候 五月迄金の折の事も承り候〇小倉
よりは支那行の兵卒千人許を市中にとまらせあり町を歩
けば一足ごとに兵卒に行逢ひ大雑沓なり〇雨生[illegible]
は七月三日出発して九日晩あたり帰ることと相成申候
少し曇天にて雨なきか晴て冷しき風あるかどちらかならば好
いと存じ候〇東京は百日中大分暑き由 勤めより帰り家
にても[illegible]ても冷しき方多く候〇只今心理学の講話より
帰りしに向ひの料理屋にて兵卒大勢藝者を招きて大

十六日

とは返し賀古氏より申来り
くさし上ぐ右賀古つる因
いよし右株券となるよ
[illegible]ま致すかまろしばた
はた様下院と申早々右に
り参とかりいぶ好くおゐり
本書国と合ま相来れと
御泊の[illegible]上に帰り候と
林

書かざま仕舞りつ即興詩人も早くやまぬなれどめさまし草出来
やむ二三日延し延りつ今村は何とりよか知らねどもやみまほ
くも相なる故これならでもさほど惜しくも相のぼまじく存つ
延谷幸之輔のところより甥すて第一高等学校の生徒なる強助と
いふ男を停相ぜりて宅ま置きもらひたしと申すおりれ
むつかしのみけれど母またづねてみんと返事いたし置き小金
井まはいまだあらん所詮好意にて世話するのみにて少しも家の
用ては立ぬなりつけても天気も冷しき方にて一日の内一二度ず
しもしあつきことあるのみなり
六月十五日　林
林

日夜のゝ書状相届付十五日到着いたし升 鉄道全通以
大坂よりの郵便（新聞）は即日午后には来るやうになりしは
京の郵便も却りて前よりおそきことありと存升○不相変
掃除なされ升由運動も暇々為されおかよろしく升○東京府
もしだ足なされ升は此節の毒となり存升 今日より出掛なされ升
と存升○避病院が二ツかわり候り上を下へといたし居升
升 評判は多分無功ならんと存升 誰も役目と自身の事と
じてて人の事は心配することも出来まじく 心配しても全権
の無のままあるなどうともなるまじく升 矢張最ヶ一天氣在
て居るがよろしく升○人主筆は大尾に相成り○人今日勤め所より

十九日夜の御書状相届仕
三十日ハ従三位篤麿を
二三山妙見ノ宮まゐりて
日々仕事の台湾の事ハ宗
他の大臣一の報告は台湾の
ノ記事見えず其事と存
けれど守邪党故大臣始め
生丹書云しくなき方と存
なれ同人ハ私の西班牙語がち
從攻撃となりし男より

お肉末枝挿え付升今村ハ富人なりとて小金井嬢ハ先ヨ
富人の娘ヨ十人の内八人ハあしかるべく照子さんが善くば其二人
中なるべしと存升○笹井とかは兄などか道徳論者こ何か
ヒ反對し居るなるべし―病氣の心配ならば医者のところヨ来
か一番安心の会と存じ升○兄玉などはいつのまに行きてよ秋々は
くるしも成行のあまり困升御生郎はいつまでも太平とお見え升○
君博去八日の晩ニ来りて曰く あまりさわがしく其趣は斯
き故ニ式し木たり今年四月より山口高等学校の教師となり
るとし理科西洋料理を學んで帰りし升 午の汽車ニて山口
へ向ひ髯を生やして立派になり升

十四日

三十本指ヒして一は一ヶ月ばかり
ぞ其ぶしやうの由より○
き夕方より陽学子留
ありては之むなしく帰

二十九日夜

君上様

ば それは当らぬものに候 惜むらくは此書は時代古く（三四百年
又小国（伊太利の中いくつも分れ居りし時）のためにかきし故つま
らぬところあり あまりつまらぬところは抜き去り 法としてむつ
きものは十二之有

吉

忠上様

林

二十七日附の御書状相見候
しかし上巻ハ流石に面白
く難有く存候 面白かりし○
少しは出来上りしも候
つまらぬ処もよほどありしも
芝居なぞの由なれば四
頭上出版人のすきな
小説との二つと存じ候
ハ少しも甚に面白うなら
もうしそくばかりなめま

し」と存り冷淡（レイタン）不人情でなければ好いが（花を愛する人又鳥獣を愛する人々は冷淡甚しきものは大抵少し）又陰険（インケン）でなければ好いが（女は立を好むといふやうなるが多し大嘘（ダイキョ）なり）修飾（シュウショク カザリ）の人でなければ好いが（こ一（たゞ事のみいふ人）など存り候しあ皿は一寸塗つては知れぬかと存

○物集の字書の代を拂ひし一札は同じ同じ金額を出しることにありとどれかとも一つ第一今日まで事によれば務約す仕存り又吉川本放宅よりまありたらば話されバ金は急がずともよろしきとも存り

○人主（ザリ）宋は伊太利のマキヤヱリイといふ政治家が天下をる法をメチチといふ貴族に献一し書にて「悪人でも天下を取れば好といふ風の事を書きあり 西洋にても尤もそれぞろしき書と申すのかハ近年翻訳書二とほりもあるよしなれど下手（へた）翻訳ならんと存

カンピし

如何来ば相分り候ふ○陸軍大臣は変らざれども 事も
一嶋五師団支那ゆきのため東京へ移住中止となりしよし近衛五師団
ニ之ル故約束なければ落合床嶋へゆく…み落合は長く在
せぬ故小父はやられぬかといひしよ今在職も長く相成り揉まれ いづれ
一と約束は一寸破ると定まり居りつば何是かは無益なり つまり
方は奉職の者あるなだまりて置かんとこふ居る といふ者ならでは
免まり○一日の羅(アミ)は鳥を得ず鳥を得る羅は唯是れ一目といふ
とあり事をさがすも一日では見付らず然し見付ればその見付った
は矢張一日よりおきみさん何故(ナゼ)今村よりかあ分らぬといふやうよ
まつども それは恰も丁度一鳥(コトリ)が今日(ケフ)羅にかゝつたか分らぬといふ

恥勉強の由たとひ成功
は相のづから出来るやう
藤ケ山に一家の中より
らんの○当寸いもある
と解剖ある村上とし
に役所やら病気見舞ひや
藝武ある○今晩八年
あるゆき佛語を休みて時
拙者一 只今 村 祖

ち

二局於芝の体よなる時に此方を出生塚演芸を済ませ帰る
月十二日のこま状捧見候り○今村す就ての説も
花子若(会ます)に見出来ますか一寅好の様子なりし
これあり○見会とりふの馬鹿げたる事は勿論ですが
の如きは諸君を聞きまま来て見れば(心理学は娘と
六人来り)様の如くなるべく料理屋より出て見れば
ろまのぬくなるべしと存り○言語の一件出来ますが宜
と存り○将属の交際会(若ハ)一ナなどとヒ申り候り
ゆう前会を賑るぶらしと存り然し前会のあとは西
とか縁のする会なれどどうなるか分らずす○大学のペーストは
申件を如く角も試験宅より出でしすりのと存り○今夜

衛生よりも錦町より
縁ある町よりの下宿
様の事御所といつれ
国書など一の芝は
とも考り茂子は大の
かけ何候様なるより
をかゞ芝社と神宮の
茂子より母上への与
を信の事いいたしが
事○始め何母より

月二十八日の御書状拝見仕り候○本月（六月）は北京より一門上も未だ参り来らば
軍医等大勢集まり何より楽しい事にて候 今日ハ昨晩のことにて
世話して来らねばならず 七月初旬には出征隊演習は当防に立ちて候
る出掛け申し候○君さんの事大抵相分り申候 但し級も出来ません
申す私とても何やみに好しとも存じ申さず外に知る人
き故 館塚などと申す論もまゐり何やみにはしつると存じ候
と事実相違なく同人に見込みとは経て承りいかなる男
に存り○保利も東京の開業ーー高田国太郎も療養の
由と称し郷里に帰り居り申す 軍医学校は牧山が校長
已に二流そろひと相成り○当地片目（カタメ）の女中馬丁と中しき

梅

度支那駐屯(チュウトン)の兵交代ニ就ては軍医は各十二師団ニ集まり
あることに相成 其部長と庄田と相成りいろ／＼世話いたし出
しおる事故本月は忙しき積りに○兵便の蘭油いよ／＼
できあかるに五月十五日本所六丁目四番地上村田漕店(ライデン)の手に
渡りの者を学問の積りにてまん／＼門司へ並りしものありて是れ
は左並りとやれど来りしたるならんと存り兵と西京丸とや
仁と浄岳寺とは積りにて浄岳寺ということも運信(ウンチン)の事に同
なさるべく候○当地も相変らず北風にて冷しくれ昨年より
の時甚だ永きやう存り

五月二十六日

林

○小倍謙吉と事を承り
に当地にても茂子と伴ひ
一夏同居の事にして学費を
溝と申経りし事につき
ケ諸ハ諸学館なりとして
同人の申事ハ世甚だ立
しくも甲申ざるならん○小
に参り○上田敏ハ才子と
ハ存ると申されより私に出
出るは上京同人の意きし

[illegible]

ぐわつヨリ日本ニて再びめとらは富籤(トミクジ)のやうなものと
今日籤(クジ)を買ひても此の如し　十年後ヨ買ひても亦此の如
しきつと当(アタ)る籤と云ふ事ナリ○多少の疑念(ギネン)を今村は
懐(ハダ)して人相(ニンサウ)(容色(ヨウショク)とはいえずとも)が好いが、果して目下健
康のと同二点ナリ折々咳嗽(セキ)をするとの熱(ネツ)が出るとの事
うそは断然あしきうと存す性質も格太ろはずん
の話を信ずる位の事ニて何とも云へまりは喜へられず
これと外の女と同様ナリ○今月は所得税事税ニ五円
とられ(半期分)併し金ハ前月より餘り居る故十一も
差支なく之ナリ○此書状と徳力(トクリキ)よりの東禅寺(トウゼンジ)を心配

それとても常備油をずんとえの手積の分滞り居しゆゑ
其渡す事件のは別に来る此 何とも不明なり 〇二十四日の
御書面拝見 たしかに今村の事と小金井とは（これと
其ともう一つ母上には内々の気味なれど）なぜ今村でなくては
ならぬか合点ゆかぬといふ風の考有之 尤もの事なれ
共 当方にても何も今村でなくてはならぬではあらねど
今村より誰が好いと云ふあてが目下無いと申合の事なれば
都合により小金井にては最少し外をさがしたる方が宜しかろ
しと思ふやう相見え候 母上は同意の女にて今村の外に
適当のものあらば何も今村に限らぬ事なれ 併し別にかりし

[illegible]

昨日中ハ少々法いたし昨日（二十六日）ハ日曜日なる故師団長
会議を開かれ艦より審中どうらり急な事ありともあらね
体なるの嫌を流義故かゝることあり あまり残酷なりなど
おやくにも有之今日一里半程先き（徳山）まて馬を銃
に数ー（会を見ることあり夫れより出張ー層に至りやうし
…暇にて此所の○山陽鉄道今日より全通となり下ノ関の
車場より東京まで続かれ事と相成り時節も余程
く相成り○醤油に付去二十二日附の端書相済より
日本に積みたりとの事ゆえ昨日門司に問合せ右
本宮港いたし居り掛ずるにこれを見ての流車積の

廿一日迄の清書状并ニ小金井よりの書状と一便
早く着いたし申しこれと同時に差出しいたしをり
村へは喪はり費を相談に應ぜらるべきや位の問合せを差
ずは出し申し遣し置き其ひ分けたしと申し遣候ことは
あり申し但小金井の考へは何と話しても立派に申し遣
と同じ結果となり先方より来りたしと申し来り候あり
ぎやう申し居り○今村に就きて考ふるときは前夫の
病のみならず本人も肺尖加答児ありしこともありと申し候 軽
由忽ち直りたらしけれども結核には相違あるまじく
り○杉おきこさんに左あらば申し越されたしと申し

実ハあの十四日ハ旅行などゆへた
○今日野司太尉の書状まゐ
りて全国を步き候はる小倉
御と肴て参上金子もある
ばなるまじと存り○芝事
は同家ハ去時井あるきゆ
都なれどよいのと存り○
ずれも東京より帰りし
一番に団人と話

君上様

…の衣書状拝見仕り羽織小包）着いたし候ニ付直ニ
白羽織一、フラネルシヤツ一、（これは衿(エリ)と袖口とを取替ゆれば濁
申さぬならん但し洗濯して用ゐるべし）白シヤツ一、（大分いたみ居
る麼物(ハイブツ)ならん但し洗濯済）書籍二冊、（謙三郎兄んたより借りし
）メダイユ一（故意の物ちやすてぬ事し）以上小包として差出
候○脂油を着いたし候ヘ日身ね兄ぶく程り差出人よりと
こう調へ（まさやうはすゝ）るのや○番傘二通封中差出す
候行中ハ二日も雨ふらず二十日帰りて汽車に乗りてより雨ふり
のみにて今日は又好天気にて涼しく今年は暑さ遅く候

申ますれ共今年は芸より姉二人
たゞならぐ一〇芸術の話
生の申して学ニ郵もたゞある表
る表承つあしく振りけあ
表承と芸事の出来すまあと[illegible]
猫可ひすゆうて内に表へて郵[illegible]
表芸ちらつきれ共兄ハ路[illegible]
如ハ俳優の素路よと頼ま

十七

父上様

五月二十二日

年

村

○姉栄子のゆき一郎山
り由より内一万円程ハ鉄道株
より（此件も内上）○賀古財
に上京有り私等はまだ不
う活様ずいのお報を承
と私も心故少し気子当
読んでたーは其の通常
四ハ加ぱ四とあれバやがて以後
なましいたゞ一の上に候
これもたしとは不存の
堂日より乙子て

征韓の策源地たりし名護屋なれど戦務後の時方二三
時方ゆゑ立松寺（ゆき一のみより）○これより来月（六月）中
ば其事又七月初よりは衛生隊演習ありて出掛可申大分
暑からんと存候○めきめき草いよいよ毎月十四づつ繕足し
とれ候日最早三月分（三十四）たまり居り候へば
一冊送るべく候○公衆医事の
西カより居れども今晩もくたびれてたあより○此事
明日投函可仕候
五月二十五日夜
兄上様
林

暫く徴兵状況視察の為め柳川（筑後）唐津（肥前、前ま[illegible]
筑前と書きしは誤[illegible]）地方旅行[illegible]今[illegible]
（二十日）帰宅せし[illegible]十五日及十九日の[illegible]書状拝見[illegible]○
最早団子坂にも蚊帳は釣(ツリ)なされ[illegible]柳川にても蚊帳
を吊り居り唐津にては吊り居らず小蚊もすくなし蚊帳を用ひ
○自今為換を郵便にて[illegible]注意下され郵便
のあしきことは知らぬならず[illegible]と忘れ居り○[illegible]
水沫集月草など皆売切れ居る様子なるに再板もせん[illegible]
む（水沫集は再版ありしや）と[illegible]広告[illegible]
綱領と審美新説とのみを載せ居らば[illegible]と存じ
唐津にて近松門左衛門が少(ワカ)きとき寺の小僧になり居りし地また
大坂にて死したれど唐津に改葬せしなり其寺（近松寺(キンショウジ)）

[illegible]
一工あれど丸で[illegible]

言語の件は一昨日聞
の小ことは白節省略(?)
甚く存候 同時に廣(?)
好き道(?) 自然に付 只今は
転上新 参張(?) 諸思(?)
かられ候○芸本より
ま上京の時日の事御(?)
が○山田へは直ちに返答(?)
まゆきしまし(土産は尾張(?)
ゑんは大に気(?)にあたらし 十境
けふのたのしみ多く有之

十五日の法書牧(?)捧(?)え(?)くり○横浜の会館訪ね候に付り○
日本史料代金の事 尚便中上り置り候一ば為換にて(古方より出しくんもノ)了然口啓(?)上
云々と○杉(?)と教科書いろいろ(法罪形(?)の由形り)○小金井の今村一の
話を猶豫せられ候ハ小生の性質を考へ又生活の工合を考へ後の深(?)
果を疑ふなあならんと存候 これは小生自身とても必ず双方関(?)過
おぢきが疑ふ事なれば無理ならぬやう存候 一日本流の結婚
をたとひ分別(フンベツ)ある年になりての結婚にても不知同志(シランドウシ)の事故注判(?)
座をつくる絆の元也 付くといふ事は是非なき事にて候○
大掃除は若方(?)承知とて存候○太田夫人の件 長々と書けども 一向
つまらぬ相と存せられ候○只今より起きまして一草(?)校正まいり

一日新聞の方は おん付 ○ 菓子は毎月五十円のふつうひ
□その菓子屋の話は新しく勿論本人よりは少しも知らねども
路々ども年々の話の中へ入れ実際の事大概(今時に)知れ申す様
候 八金々実説にて初め菓子と渡世に縁付けし時の現今
致しなれども一万円と称し居申す由相離知とお年
実家は法(手)廻りしども修理の如きあへの事にて相同し居り
半ば菓子渡世より帰り申す時渡世より外の弁償として二千
差出し候も壱千円を現すに其の許にあり是にて手續もして
来る事ならば莫大(少し)損やせまり申すもの又申し付け由
新聞には当時は二千円と一万円とあり「一万円位のかね」と
して出し申す事ある由申し右全く実説にて毎月五十円

一月廿一日
[illegible]
[illegible]

一〇 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]

正岡 [illegible] 下 [illegible]

…居の事

のおは明日（稽入）掛
衣紋の小包写遣置
深窓（シンソウ）女の掛軸（めづらし
男子郷氏素性めかし
素性上等のやう
総て付合世何りし事
〔?〕の昨日は未詳に候
〇芸子路国共
形相の気入よりもらひし
芸子と字地にて識
より出す噂の第八回

何もこれより不嫌な点とするとどもさりとて立派なところえと存
するとの〔?〕説のとほり又ずては合らぬと存り、貴子といへば二の
足下先方にて酔み、実ならばとかく〔?〕のおとおりや、世の中
士等事女氏と存り無井なとのぬきても存外之たらぬ夫なし
相つのも不知と存り〇昨日より福向男居中体を存り候
小なる来り下宿屋に這り居り七日々学問の話を承り候
〔?〕あり相もろく筆一枚同人今年俸八百円の由にて候
名はありし時より毎月二十円程づつの定めも是非
在学中より外金のいらぬ人なれば楽に暮し居り〇
此度内務省より医籍の〔?〕下付に付小生の免状

佛の門にて初こ逢ひし事一三年○（上ノ脱）瑞穂屋といふ家をどんな家か知らねど稼

（舞之）小名哉利所利子　のけ川希の言便に廣告し申候ニ付其の文面も呉れだ

ただね集りそれは浮　後二度ばかり書状にて問合せしに一度も返事せず驚入

物語あり人之落　候。右返事ニも書籍とありしは本ぢやと不思議ニ存

三木へ通ぜし人来り○白雨　於苑の問題中々むずかしきこと故骨折れたる右の書状の

すぐに届けし物出づる　の字の誤など閑暇に直して差下申候○前便雨やみ

聞ようといたしけり茶　りやう申上げし○其夕より今日正午まで大雨、只今に

すれ共は寓居を所りて余也みだり

候也

十二日　規

[illegible]上様

[illegible]へ　徒倚共中の格芸なれば無益と存じ候　友人の上ニ
[illegible]実ハ諸運動のなかなるは小生も運動の一やうもなき故
[illegible]よし　槍と存じ候○日本大将林玉瑞穂座より呉れ申（下ノ條参照）
[illegible]言相と存候　但し三田（千葉とは全く似ても）此みの表川の
[illegible]豫卿の倍價以上なりしは誰も知り居ることにて確かには知
[illegible]らねど六田より多く九田より少かりしは相違なき之併し
[illegible]書物こそ呉れねば以上何もやすらは不好み○表川へ（[illegible]
[illegible]○　李大将林の代三田余円を一ヶ月に付五十銭宛し置き栗田の表
[illegible]の代に掛らず押り○吉永には別に転じたことなき之　剣
[illegible]の轍、剣の帯、剣の緒（乳房の七ヶ年苦のも）皆二揃み[illegible]

皆御序ニ御送らるゝ故ニ御生学の新しきとあるまほしく○渡
一郎も本人の望どほりニ勉学いたしおてよろしくおもひ○当
方も今日より隔日休といたし今日も軍服を着せず済
こんどニ楠瀬少将（對馬警備隊司令官）となり赴
任の筈ありて晩方より往くとて相来り○昨日午
後より雨止み今日は少し蒸暑となりぬ

七月十三日

西上様

林

いぢ國につきて切るつけ開
それよりハ世くふ名を忘れ
月には如何に花子と共
ひまを手すさびせむとして
に宮下り
一書下され度

林

……才に……

よろしく候○西洋雑誌は六月分上ヶ候間擱八月七日の著
出の分も未着なるべしと存候○梅花の詩稿も十二日まで掛り
ては大ごとと存候○孟蘭盆も小生あたりは多く旧暦故
馬丁下女などはつづけものなど申す旧暦の方はいたしにくく候
○石黒より承り熱病も若干……全快いたしたよし
承りいつも先方より書状来て同方より是事する服席と存
候……都合○めさ候一年……
[illegible]

今日ハ終日雨ふり
十日
鷗外
[illegible]

升

…行…(この間に七曲峠あり)飯塚、後藤寺、(二…
烏尾(カラスヲゴエ)越あり)香春、小倉(この間に金辺(キベ)峠あり)といふ順序にて
日数七日許り内五日大雨にて あと二日曇天にて温度も始終…位
より今日なども曇天にてそれ程でもなけれど少し下痢する位なり○
…ほど高い為め曝書(ムシボシ)はさし控へ居り同様と存居候へども冷氣も九州
ほどにはあるまじと存候○浴衣分配表は沢山の事と存候○
昨冬大病にて下血せしより後全く健康を經し湯に進する
ことゝ両側(?)古切望の人あらば與へん様存居候○於菟は潤三郎と…
ならしめ由最早相済候事と存候○曲物の品今日夕食に…
る枉駕賜はり候○日本大辞林前の象…の仕…全…
候○「栗里先生雑著」は洋紙三四百五十の合冊也…伊…
よろしく…

七月九日
林

母上様

[illegible]

満洲
さる事なく鋏の鞘の革は剥げ離れて口をあき剣の諸
御依頼の事件
今年新調のものなれども針がねほぐれ落ち裏綿まで
事は如何様なれば右の
少隙なきための汗臭くなり実は台湾三貂角(サンテウカク)上陸以来
百日程生十ケ月余ハ十
ありきやすれ今日まで一日休みなくて飯場(イモウ)とりしところ
のよのなら 株券ハ中
浦生にあり 不安雨中にまずかずあと三日ぐ
て三十五円丈の実勝候
演習相濟候の中に◎小泊台長と台湾へ入り初軍した
べく候分界に若しからんと存じ○十二円国より
此儀とうあるといふて 那へ遊りし野戦病院と名前書せしならん同国より
候がおま生したらか而 編成せし第六大隊と而用となりて解散せん
十二円の價あり出すれ氣の毒と存じ 七月十日拾鉄富
まずよろしく一筆と 平田拾
廿

おし昨朝は六時の出発にて行抔と少しも早めて参
只今は雨ふり居り（されども出発ならば止むを得ず）
ざと存り〇九日は帰り来る答を相談居り其上にて
那ゆきの大隊を送り出して仕舞へば暑中休と相成
申すり

七月二日夕九時

丑上筆

二百日出の大将林前田の（瑞穂遠）隊ニて全何田なりしら
最早此方には全然の抔に有り若し分りれば帰し
みなり 郵便にては小包の人名は留め置からず

三上様

[illegible]
居まへ [illegible]
くおいを [illegible] 申し付けらる
申上の〇〇 [illegible]
上條の家なる母上様
中まで〇〇 [illegible]
あまり母上の方 [illegible]
カナ一個のマゲ（これは
二十五日 [illegible]

病院をやうやく昨日川向より出船いたし候　高橋芦[illegible]

直なる好き男なれども人が右といへば一応は左と言つ[illegible]

ふといふ風のところあり出発までは面倒の事ありてはな

らぬと存じ候へども不事ニ出発いたし候〇今日(日曜)まで

小生は五日間雨ニて七月三日頃までやみてあまり悪く

なくば結構と存じ候

廿

六月三十日

圭上様

[illegible]

五郎一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

…れば五日前には山科学長となる由読売新聞に見えたり　適当の事と存候
[illegible]の都合の学校[illegible]同君より昨日葉巻烟草の大いなる一箱相届り故直ちに
御上まで遣り存候○[illegible]進呈仕り○小池は七月に台湾に往く由官報に出
居りて尺も丁寧にかく[illegible]それはペスト流行のため命ぜられしならん○
如きまし一年の事千葉君にやらせてよろしく存候　但し
戯談の時などは随筆一篇　昔年小説を草し絵をゆさまし一年と改め候へ別なるの
[illegible]は絵りあたらこのなり　手て改め出すとよろしかるべきかと存候　実は目下のところ
まては真面目の雑誌（文学の）は一つも出来ず之れ又た時勢ならん
帰るはよろしと存り候　なしうるなきや御相談被成り　其間に真面目に出来るところ
二十八日　[illegible]　丈の方まで千葉世話致しやうならば強ひて御願申上候○日本
[illegible]上様　大絳林の前の豫約の事は私は最早やめたり

鮎介君

十日夜

[illegible]

候ハ院長をやめしこと新聞で承知いたし候の事

課長楠瀬少将となりて對馬に往きし代り只今よりは

平服にての小池と試及又出生今議議長（後来者之四国軍医

部長の兼職）をも兼ね学校長と云ふ、すべて東京での職は

皆一人にて生ることゝ相成り大努力をなさねばならぬ事なれど

一方よりみれば児玉の事故局長と事一旦上は何でも

申立つる自分に任せて呉れるところまで来らせて見る

やうな事情ゆゑ存の明治（三十八年）陸軍病院より

支那へ出張の出来は何分よろしく頼上候

今月さしむき用心金子手当付けの由　二十七日　雨

二十七日夜

君上　操

林

[illegible]痛と存せられ候へば入院中一のところ重症となりたとひ性命は助かるとも 佳[illegible]
松国七州四少将来宗よる係は居ることむつかしと申事より依て松本四同少将
かく月末より四月初なるべし 是迄年来威権並ぶものなく新聞までは末年の参謀総長
ず何故か人に話して居れど なじみ申居りしが此式不幸ありて人間の運命ほどわからぬ
ものは中は第一師団(ま) しきりは東一と存候○近れば田舎に勤め居りて上
わは三四町手前いづれも出世 身体健全なるが仕合せに有之 昨日申上候意味の一洲
○雅春は買手あらば よく申上候○昨日ハ法国行軍医の送別会あり
松横浜より積出すため 医等ハ二十九日門司より出発すべく候 今日は雨天なりし
右ほとんど差枝には味噌も同じ筈にて済ましあり
あらず 不同とならば 二十日
八日午後 恩上拝
恩上様
廿

物乞ひの話は今更に
御面記有之候五円と
私出入居なれども此ノ
お前方御日下さ候○
度金くれ候ヶ
手紙之候○唯候

三月六日

兄上様

しと物ひ居りのことはなきは昨年ら
は参考ニ而御一○異の一件も忘れろと云ば
情しずして其をひかへ迷らうと云ければ
昔ひたくなき人情なきのより今村と
云五拾円様ニわっても知らぬ足らぬ
明日は月給全部ひ弟ニ遣し金子仕候

オれはとうもいたすこと出来まじきかと存候〇好
き都合の自由なる時も或は可有之 若し第一たくさ
勤むる丈勤めて平氣でゆき氣楽に学問なして暮
しても好し人間はどうなつても平氣といふ腹を据
うること肝要と存候〇星の政治界に於けるは很合無
理を出りとはし人を凌ぎとはしたれど偏ろう時と
なれども其の如く腕きものなれば時々矢鱈に窮通のたより頭を
なやますは大損なり〇二三日前風にて暑かりしが
今日は曇りたれども涼しくなり但し咽喉にまり咳及び

其上申候 右住の面
十付国 [illegible]
[illegible] 由所 [illegible]
〇 [illegible] 国 [illegible] 住之事
明日(十五日) [illegible]
[illegible] 之序 〇 [illegible]
[illegible] 到来 其日より
お [illegible] 〇 [illegible] 国
[illegible] 中
[illegible] 〇 [illegible]

市りり 二十四日 林

兄上様

…〇今日ハ[illegible]日和の一日…

拝呈 紀行読竟 掛物とを見ぬ 北方一寸あり 帰り途中より晴天となり風ありし[illegible]

出申候〇今年の軍隊郭長は雲出で霧の如き雨降ち降り降ち止みありしが[illegible]

自分気分の調子は一日もらく相成候 一時やすらず居らざ 地尾も平らにて気分より

[illegible]のは[illegible]篇） はなはだしく被存候〇今日は端午なりとていろいろの物を贈られ

知らせをみきらひせずして[illegible]

来るお萩かはもちろん開口なれど枇杷は東京などよりはなき

大きなものにて〇二三社よりお露らず云々として雑誌

と言く罷まよりは若き人を引 どうぞ来られ同人を招集社するや不審に存候〇すゝ

給へ いくらでも好し出来 林次郎事と太陽の批評を書掛けつゝある長文を出し

等の事ハ罷でもらひたしと存候 居り

[illegible]郭慶を掛け候也

[illegible]より話あり 一は古きこと

二十日

[illegible]上様

林

佛蘭（フランスより此迄お注なり）の払ひ下のあるを見出し
ノ〻は求めずあやまり好みはあらねど西郷の直談なれば
ぐも同様にて〇前の件子沙國と小倉子帰着にておむかへ新
七郎の記念式あるべし一但し一ケ月ての内通なれば西洋
が都合来られ〇来月十六日頃は大会（小倉子より論達二
今）当館一所の開業（カイギャウシキ）式あり英商総大臣よりあまねく
五月 物件以上とても小事なる一ツ之一括して来月西
用料理の趣きにならんと存居り

二十六日　林

母上様

いる女のかハ相談しながらかがれた
それたるは決ゟくだらぬ事
其方ニて取かへりのと存じ
の下女とを伴ひて帰り申し
五手下めを伴ひ帰候すれ

一月十八日

母上様

二月四日上京の事 廿三

十八日ゟ清書致候処仕候○古事類苑の事相願
申越も大分巡礼記の事も潤三郎ゟ承り面白く存候 回
[illegible]蔵記も全く執念相成 甚和潤三郎より申
[illegible]書写甚尚承り○醤油之事漸山あるに付遣し
申上候○馬（北斗の方）の事御知らせ少々出来候へども大分ほ
なる内に記去候へ共全体にて出来れば直りきらぬとも
去も大と存すれは北斗ゟも少しづゝ出来るとなれば
候旁うれしくすれば心配少く相成候り候しるは頂く
[illegible]話に於○支那より庄田も有様も居るそて相願
御ニ好み一筆にて○潤三郎の買ひ一件宜しく好きものの由

参と申す之帰すと申
にも立夏相成候へ共
事も多く故障生有之候
暁には空の上も氷結
草には何ほどもなる事
文庫も御座も仕候

拝

三十九日 [illegible]

十九日付書状拝見候 切手の手紙も承り候時
の論の由 扨に手紙の文章よく條理立ちたり 感心に存
候 一寸御面会にて承り候由 気の毒の男と存
候 学問を習けれど器械の事などは迚も出来ぬと存
候ところ 感心と存候 ○ 味噌 醤油 塩 砂糖 酒
運賃などの事よくたづね置き 控へおきし事必要に存候
小包なども 秘密を手元において 秤を買ひおき 一々勘定
することゆゑ 大きに便利を感じ 此間出したる書物二冊
百八十匁あり 小包郵便にすれば 二百匁と 五里以外の計算
にて 十六銭なるを 書籍にすれば 第四種郵便物として 三十匁ごと
に 二銭づつ付 十二銭と相成り 若し一冊ならば 六銭位にて達す

懸念には不及やの由 安心
帰りての話に 私も承り 甚
と小池より傳言ありしの事
とあだ秘密のやうに申せ
兩所の向ひの家にても 此 [illegible]
何縁なにして帰りなさるお [illegible]
守りすてなさるまでに ○ [illegible]
至未だ [illegible] あらば
一 よみ ありたらば
國ちやんへ まゐる

林

どこれよりおもしろし〇小金井の家族どんな工合
よろしく起りて騒ぎするのは世話するものにて宅外の人が少く
なきものなればもちろん[illegible]〇今晩は
舎弟立病院長となりて来り太字の甥子在上郁之助と
小男の家をたづね只今帰宅而して早川の人なる
あの同地の人の由在上も年少く云ふ小姐の如く
早川とは別家多き地なりとて紐などの人なる
河く要を語りまりく其上在上はおとなしき人
それ院長はちと若すぎるやく[illegible]ゆきしことある

早川菜副長も夫婦とも梅河人なり

十月三十日 夜

梅

[illegible]

梅

二〇渡辺の離縁の口實を芝居めいたるとの由承り
二十九日朝御妻女小金井乃ともに此方へ御越し候
役者買などしたるはならざるやうと存じ
小金井の父親よりも其事の口上之趣被申付候
得分やり無益ならんやうに存じ、それならば
存ぜられ候、就ては兎も角も至る所を知らざる
論じやうもなく、芝居の外があやまり詫入られ
ならん、テルの事らしく控へテルに手に證據
りたりとも申さずとも、囲より役者買などの證據が立派
に上際の人ならばめぐらされず、かれ申すとなり、テルの毛
まあどうするものかならば渡辺も事實の前
（つまり塚渡辺の方の人）上際まではお話しつまる
ならぬ、けれども離縁の原因と定
ならば、ならぬとも、扱みて上際まで芝居めいたる
まあらん強かりてもあやまりても離縁の原因と定
きやうなれば當分くのお話を伺ひ候地位ある
際物事あるけれども知るべからざれば、レッサリ
てある證あるべくは言はざるべし、となり失錯は無
ござ此方の者を善立なる手あり、不幸長く困るも
一四日一ト着かつぐ生まれ子 [illegible]
○ともに書き認め候と [illegible]
[illegible] 一寸申上候
[illegible]
[illegible]

至性質の合ひよきが一寸難渋と存じ候れ　に…又は無き…

母上の一族は念心なされず学合の性質はお　角が立たれば直

りう付は念心の後事柄ありて議利なきもあらず　此をおとりすまよ

男と女なりし後不調となりしようなる事の

話よりも承りたく存じ候　左を摘みませば

「血結が許し難きものあり

血結は差支なきものあり」

性質があしきもの

性質は差支なきもあるか

の者とも上取捨する必要あるまじと存じ候

十月一日

林

林

僻一理屈を申て居られるよりは そろそろまし

存り○芸者人ハ皆病気の由なれど茂子一人は

ば 只今やかなる教訓あり手強き者と申し居り候 拙ト○

帰宅以来ハ気ハ全く修行を嫌ふに至り候

られ

一月十三日

吾上様

拙

承知仕り候日為替金

○味噌と醤油と殊ニ少々

御代価ハあとより送付

し十分にして承知仕り

両親子ハ兼ねて聞及居る

脚ニて一寸位之手紙ニ見

候ハ○切手の封入を頼ミ

候ハ…すること肝要ニ候

拙

○西欧鐵之様の
うまくせられ初め
檜物と云ひやう
二回五十年づ十ヨ
はうなう賀壱のとを
ん一昨二十五日ハ賀
免角昭ル様
今日新ニ掛也み主
れう掛也れ候りし

松ぞ蔵ノ手仏者先言之互すべき事ハ西言中ニ小づら
して出る中けり○「大審院缺新よ候」と云事
讀賣ニ出しと全國の新聞紙雑誌いづれも芸本の
芸男が去年の始をもらへんとせしとあり不通とはり
し給と混同せしならん事實に違ふ○於芸の
獨逸漢ハやさしい事と誤なく此れ歟もの
き方よりく改め此事必要ニ而文法ハ稍なり
しゆの分なよりハ及しうりしやうなせられ候その流
ええしときは当世の學生の如く多語しく我
もなけあやうまなりの中其ニ様敷音のとのひらざ
なあきらんと歎きかしく存り○其子は全くの手偕

宗旨雜記

下

C 40
1033

宗旨雑記下目録

九真言宗　大日如来
十天台法華宗　法華経
十一日蓮法華宗

B 23475
000452985 5

九

真言宗

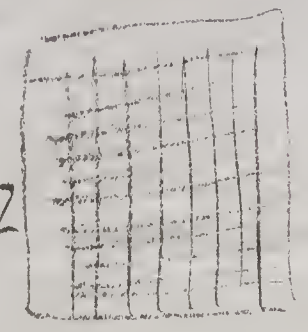
一真言者陀羅尼呪也新訳云真言云明也舊訳云惣持也依大日経蘇悉地経金剛頂経三部宗於印明真言故云真言宗也大毘盧遮那成佛神變加持経六巻三十一品亦加供養法一巻五品則七巻三十六品是大日経也唐代第六玄宗皇帝開九四年中天竺國善無畏三蔵訳蘇悉地羯羅経三巻三十四品同善無畏訳金剛頂経三巻三品玄宗皇帝天寳五年大興善寺大廣智不空三蔵奉詔訳又用菩提心論一部龍樹菩薩造不空訳也

而就此論真偽異論有之

一供養法巻縁起者供養法疏云无畏弟子不可思議法師作二巻中天竺國王有四子其王臨命終之時王后請問大王若崩以後何子當為嗣位王即答曰小子可能継位也於是父王崩後大臣百寮皆悉来集請問遺制王后即答如王終言是時王后及諸兄并大臣等奉請小子将継王位小子答曰我有誓願出家學道望濟群品不堪継位也毋后等再三重請如父王遺言小子亦如前辞謝毋后等三請已後強令継位小子不敢遺逆遂即王位之後更亦

一月二十八日づけ書状昨朝拝受致し候も小泉匠事編纂（ヘンサン）中
御返事延引いたし但小泉匠事にても
ゞ又々少し蛮をとゞく存候○二十
日の大火今日承知いたし候まことに見舞の
一言も無之、さて私の出あひーーストリキニイ丙中毒
余程大事にて古山も心痛の事と存候
事件も始めもなく直ちに案外処置ーわ
何分深甚有之一報告することと相成候へども少
も未だ只部下にまづい人のあるは部長の
慚愧（ザンキ）の至（イタリ）なりとおはことわり置
べき難有存候○大阪の菊池より別紙の

[illegible]
[illegible]
圖書○[illegible]十円
言ーかり[illegible]



[illegible]
左手
右
落手
一枚書留[illegible]

会は始ひ事今月十八日より始むるといふは病院長を
の顔をそろへて見て其内より軍医部長まですぐき人物を撰
ばんとすることゝなり それは軍医学をこしらへ又英国
を引かすれば穴が出来る故の事ならんと存じ候 今
月中には何事も運でざるべく 又それより後の事も今
少し様子を見ずては分りかね候 ○ 友者雑誌社といふ雑
ところより心頭談を出板することを許してからひ
とか申す故やむを得ず ならぬと申遣 又文庫といふ雑
誌は時事新報より出し始書を出す事にしたから ひだ
一と書いてやりしかあり

二月九日

ことは雑誌の主宰
の海老隆のようはない
等にも論ぜずあれ
三位まで玉のやき子あり
子は偲ばつぎて帰り居
との事に母上切角いふ
その婦娘をみんと存じ一
向に住みのながら一度も
きあひだまだ見ること
美しき女は評判のよ

大ネ

議と符合いたり

と出来ぬやうなもの

学問上り○つらく

問題でもやうのものまでも

まじくて勤めのが顔色悪く

たるが故に今ヨ宴会ただ

庸らしきやうにも存じ○

など少し隔りての論議な

ケンのある顔などいふ方

人…り○小金の評判よく

二月十八日の御書状拝見仕り○まづ一旦止みしまた今日は雪
まじ○山根益吉台湾より帰国なさるならば台湾ゆきも
八虚言にはあらざりしと被存り○庄田たづね申候回
人も医務のうち出張者なる評定をたづねし二面会候
は評定一人（小沢まあらし人）のみなりしよし申居り○小金井
とは待受いまだ…と被存り○馬のインフルエンザ当地へ
も流行し宅のも二匹とも煩ひ申○潤三郎より札ありし
此日今日出かけまず見しが好きなもの多くあるやうに被存り進々買
取のまゝ○於菟十三歳はいろいろ受取まくき話に可有之申

二十一日 林太郎

しげ子との

十五日御書状拝見仕候〇陸軍省より来三月二十日

午前九時より軍医部長会議有之旨申来り候それより

前に出京可仕候〇懐舊会幹事の大村と咨にとは内心にて[illegible]

独逸語学の家元の中うちなりたる者にて [illegible]

大[illegible]の懐舊評議員の中ちなる役の時は私も評議員なれど欠席い

たし候其時は大村の方にて働き被下候[illegible]

の方は面会せしかなど記憶せず候〇西洋雑誌は本月

帰宅の時よりまだ[illegible]〇即興詩人も下

刷は[illegible]なれども[illegible]の事と可仕候

〇当地は十日より十七日まで雪一日も止まず十八日曇天にて

[illegible]らず候今日晴天と相成り市中は陰暦元旦とて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

當地は先日来日々雪少しづゝ降りしに今日（十二日）は朝
より只今（夜十時）迄大雪にて日曜日と紀元節とかさなりて
ゆゑ色々（学問の方の）用事をなさんと考へしに土曜日に諸師団巡
廻の勅使（渡辺侍従武官）来られ日曜日も終日随行し紀元
節も少々公事あり今朝勅使を停車場に送り出て新年
もう長巡廻あり今年も体らしく落着くことすまず○十日
の御書状只今着いたし候東京も日曜にて天気好かりし由結
構に存候 二百四事件も耳医学会の会頭が小池なので小池と書き
しか知らねどもこんな話にて耳医学校廃止の説が議院にありし
ことを話したのみならば好けれどどんな風に話したるものか何かゆづ
事を申すべくと存候○朝鮮釜山小学校にて朝八時前に小児の

牛ねぎ一のみにて旨きところはあらざりし由に候○小倉衛
戍病院長庄田喜太郎（加賀の人）此度会議にて上京に付
面会致したづね可申様申居候まことに正直にて相応なる
き好き男に候○師団長も参謀長も風引
一日出勤一丈熱ありとて一日休むといふ工合に候
多少面白き事もあり候がいつわり居るかの事と存候但し
行の人なりといはれ前なり○篤次郎より
論文調子のよからぬ方よりも論文調子にて参り滑稽
に候○軍医学校には新に帰朝せし教官二人出来候鶴田
都筑とて鶴田の方は好き人物に候
十二日

右記の御書状お見付
みなればあれまでは分りへ
おすること（石ずり）いつでも出
ことなき故どうしてやるやら
出来かねしがそれは会議
より出来れど漢口郵便
まず之に○津和野は往くに
日は観兵式にて午後に桂園
き日より九日よりは先づ
○小池のやりやうは近今

〇の事を調べて来てり
候まで転任の事なきは
本年十月か十一月頃の事
ならんと存じ○右も小
池は左程長く維持(ヰヂ)
陸よどうか動きを付け
存じ○今日(四日)は雨、小
帰り昨日(五日)は新年宴
しますば休まれり
一月四日 夜

二月六日書状二通の御書状拝見仕り○福澤一は新聞
の廣告(大坂毎日)を見て直ちに弔詞差出し置けり○当地
ハ今日(八日)頃よりて少し暖く相成り梅も早く開き
一大分最早少し凋(しぼ)れけり○小池の話とて加古の申れ
事も等後郎よりも直ちに申来り然し加古程も
少し早春辺の方なるも小池も加古をだますを聞いて(だま)す
居れば信ずるに足らずされながら小池の者を上
げよ、とかく考も少し無理なるところも何れば傍(かた)より
自迫(セマ)られて上ぐることも無きに限らずと存じ○陸軍省諸
会議は師団長が三月十日より参謀長が五月一日より師
来りしは軍医部長のみに限り立会することはつゝ かのご

ことは出来ねば旅費をかせぎて佐賀へ往くと申す故それが好
しと申す 山根も直ぐ松宿を引拂ひそれより五田ばう
の入費をいたし 同人は最早全くの詐偽師となりてさまよひ
居りのと存ぜられ候 ○米原書状の事承り候 ○師団
長の会議と病院長の会議(これは今年特別との事)との事は
既に申来りし 軍医部長会議の事は申すて何とも承り不申
師団長のは三月十日よりとの事なれば当方のは早くとも
中旬遅くば下旬と相成可申存候

二月五日 林

はゝ上様

明治卅二年一
小倉の書

三日の御手紙拝見いたしました　当地も二月一日午すぎ暗気
なりしが夜中忽ち寒くなり二日三日四日五日と雪ふりてやまず全く
は止まざる為め病気となりしもの多くあれども私は健康
より二日の朝起き出でしときは額（カホ）の皮（カハ）痛み今日あたり糠（ヌカ）のやうに
は剥（ハ）げ落ち甚しきていとなりしなれど○椿油
どうり昨年生じしものと存じ○山根も改心して当湊にかへりては
往くつもりて旅費は持ち居り舟も四日に出づるゆゑそれまで宿
泊を頼むとの事、立見（タツミ）（小名浜より来りしとき自分のとまりし家）にとまらせ
宿料を払ひ出はすことゝし三日に至りみれば旅費不足と
ありたれば貸せとやり船中にては旅宿を其方に世話せしは其方
を信じてはあらず自分をたよりて来たりとの事ゆゑ白

[illegible]
[illegible]
[illegible]
より

[illegible]しまして葉もしおらしく[illegible]

[illegible]話も[illegible]一[illegible]

[illegible]〇[illegible]

[illegible]

[illegible]〇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

候由只今某客の話にて　たまの外には藝者にもなりさうな顔

とも見えやう存す　何ぶん右之外土浦（ツチウラ）といふところのうまれ

と話す由ます〇客帰りし時雪止み只今正午一と相成

二月三日

[illegible]　上

[illegible]様

三十日の来書状昨日(二日着)全前より昨日未亡き時計備ふ零

度より下り大雪なり午後出勤、午後は寺の佛経講義を聴くに

ゆき四時半に帰りそれより修行社に往く(步兵中佐の大佐となる)

説話あるにゆき帰りて子供やすみ居る今日(三日朝、日曜)

同誌を再び来たし○東京インフルエンザの流行の噂ありし

に一同集まり来りしを指となり五に七十一歳地もあり

最早大抵皆み○来説のとほり役の向は部下の事

なきがよろしく、然一事あれば其の時の処置は第一なる

俗人は直ちに注入す○此の処置は職人として為すと名誉心をもた

すとあり多く世間よりなされたるは名誉心またある者は奴隷

など馬鹿よりは宜しきなり○花園の時代の下女にて下野国(シモツケノクニ)より

[illegible]

[illegible]

女中の会計がヘタにて丁度七八日程ヨケイニ入用
有之一向仰ぎ不相叶造化の配剤とナシ――○山
根蕃吉（ちょっとお顔を出し一寸男）当地ニ来り東々ジロジロ
都合の旨叱りガども矢張宿屋の代ニ四五百分掛は
せうくとし根叡りは分迷惑なる事ナり○不相変
暗夜ニて今晩ハ又々雨ナり

一月三十一日夜

林

上様

のと存ぜられ候由中のもやうそは谷口と落合とよ
り東京小名を占め私は大坂よりやうなる風説有之
ものゝと存ぜられ候菊池は小池の両名せしことも東京小池
かく申ししや詳ならず候○小金井二月中帰京の
上ならば会議出来候ことは両名出来候事と存候○
外との内容書きて相済せし「サンドマン」(砂屋)といふことは甚
英国宣教師などは知らず小学校とめづらしき事
左様ーしものと相ごろさ候似よりの諺(コトワザ)は拾遺はさ之
何か思い書いて参らず候○菊池よりは出京の時大坂よ
寄るやう申来り候へども「ストップ」あり地より立寄りそは出京

[illegible]

早束一はをさやまんし申ね居るかとを様ぜられ候〇皆

油再度ハ誂の由承り当地商家の話ますべて十二月迄りの

荷物は差出することなきゆへ由申れたるあれど様

芝れ尤甚高家（当地ニ類なき洋物店）ニても蒐申しおりしが

ちぢれど増田の紛失も多年一たびもなし[illegible]〇当

地ハ不都合随分最早大宮と強く申を寄り候まし

論ずや[illegible]

一月二十六日

母上様

林

八日夜の出火様へ仕

[illegible]事[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の事も[illegible]〇[illegible]

[illegible]申上げぬく[illegible]じ

何れの仕事[illegible]

一月十日

母上様

[illegible]

[illegible]は大国あるまじと存候

十二ハ塔子より土産あり二十四日の御書状拝見仕候○当方別に変りたる事も

三郎よりのお情に福田

私義三中一杯[illegible]

三日ニ付御手紙二三郎

一所にと存は松崎より出

一月初は小池は[illegible]

国より手入ニハ誌も[illegible]

なる事ハ出来ぬ候

[illegible]

ひほか○大坂の寓居勝手より解剖学教諭一名千円

る所行も全く二六などの流義にて好ましからぬ事と思

なるが雑誌に出すや否と存候鉄幹の根岸の子規に対す

諸明星中にて相応なる鉄幹一の返書は餘程へんな

御兄さんの露伴が大和田と落合との両傑作ならむと

候へ共始より鉄幹等は迂書の外道

とつまらぬものにて此故鉄幹より投書せよとて雑誌を仕

輯にて紙の好き所美しき事は大したものなれど

サンシン○明星（ミヤウジヤウ）といふ雑誌も与謝野（ヨサノ）鉄幹（テツカン）といふもの、編

四月十一日の貴書拝見仕り〇馬の膝当着いた

此一回五十きと申置きて二回取りしは横着と称し贅

津の宮城氏のやうなことを申したら大ならん〇先ほどの酒油

未着に付当地の酒造会社に問合中にて候〇笹井

左内殿前に至りし事になり候由承り〇此国は此

の如く食色を商買にしては随分困りのことに候 全

く他の遺族と交際を絶つことも出来るものや如何と存

（野村が但し今回の書面に三嶋とあり）

候〇三嶋生未だ嫁せば世間の体裁は尤宜かるべし

但しどんな人が知る方法もついでの六ケ敷く不毎上候

なさるとしてもくだんのことわらはいよいよあしかるべ

（あすへ入れおけり）をこえども

し潤の部屋の押入の下の

お残りたらば（これは四代

ど同じ不有り）それを

三部は残りたらば

を南部町へ出して其

しまはれんとしてもよかろう

此とあるもの

色にて移て上り〇此は

旧八み暖まりし所

参上

実ならんと存じ候。尚三嶋にも迂闊（ウカツ）にて先生ー
ことなりと存じ（宮奥さんせんといふものもありけんを）この
らざる方は知らせず母上はらんせいの様子あらば
宜しかるべくーされど右様の様子はなかるべしー）○
もしフランス人病治して長崎より帰り候はゞ直に稽古相
始居り○拙義の学期の試合存じ候

四月十三日

林

母上様

申

年の[illegible]

ー[illegible]

ー[illegible]の[illegible]

ー[illegible]

ー[illegible]

十一日夜の御書拝見いたし候 不用衣服と墨
郵便にて出す筈ゆかりは白き地にて好きな二枚
にて津山まで宅にて掛け合ひ候ニハ大きな数枚あれ
ばそれにてよろしく候〇松菊大分楠愉快と存候〇
明日(十三日)より風引未だ歇ややも今日は日々寒
耳鳴にて濡れず病むの事静かは明のよふは病
院長会議にて三日前にしく存候〇件合
別段主義が勝つの家柄主義が勝つの何だの家柄主義
の協力餘程強く相成りやう存ぜられ候

四月十四日

[illegible]

ヿ秀でたる作などを出来る会すらず儒教まで詰
（孔子の刪修り詩経）を政治の助とするより思想を受
継ぎたるのみ秋の説とては斯る低きものと存ぜら
れず併し伝ふ主の今のゆきところ之は洲凡脱俗の
論を指して居ても出ずべきにあらざる一くかへもゆ哉
音の演説と評せられ一るくて◯笹井未
決の由被附候り同君之ちい話の由三膳をもぎう
可存候◯昨日病院長を聘いたしれども
やむ勤立ちとのらで今日を師団長より病院長を
其は抜かれ◯これより寒は一筆を書き甚

十九日午前

才元一改良よまへり
我れも皆務る
小沖の第賜のお手
らなり）来り我名
これ至急すらざる
三浦のあとまかなり笠
とも おもれ（茶
ね……なりし
など 顔
面 庵 境 一来り

大坊主の大手紙参り學科用書稿等詳細承知いたし
候○今夕（十九日）ハ又十七日の御書状着いたし候○拙著の
学科別ニ苦労せられ候由承り私文の教授はいかなることを教
ふるまか仮名遣、字音仮名遣、から結び位よりほかなかる
べし　或ハ読みがむつかしきやう○竹柏舎読（竹柏
ハなぎの木（也）信綱氏の父なぎぞのとやらかしたる）の中にある
幸田の演説一読仕りいつも信綱氏の説にはかんしん
ありと覚え候　あんまりの如く信綱君と云人は
よし説は己るしと存候の安井とやら云もし両側の
事ながら色男ぶ動作もなく動作ニ色男ともなし　どちら
でもきめてことわらねばことわればよいと存候

拙一
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]○[illegible]

[illegible]三郎○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]国

十八日迄の御書状拝見仕候○衣紋千事も着たし

は中略り立方よろし黒紋付の羽織も又々切れ候ら有

さればたらぬ由下女か参りて秋より直しておき一面

[illegible]と存り○菊治郎次角どこの少しづゝにても[illegible]

生活不致故なるたゞまもちずやしと存り人力車よりも

するか毎日少しづゝ必ず歩行することにせばよろしかるべ[illegible]

存り○こゝ迄毎井あ借主定の由承り毎井を気[illegible]

くれずとも好し一つ家とは話し一通三嶋とやらは毎よ

からんなさらぬ内に飾り話の運びぬやう致し可文[illegible]

井を推出しゝぬく今少し年上のものを推出すよ[illegible]

羽織胴着等御送申上候事今少し見合せ候もの、袴下等つぎ
たぎ甚しくなり来年（今暑）着用の見込なきものを洗濯させおき申候
御送り申上候 潤三郎も馬よりの故右までも猶暫しは着用仕
来り申すも毛皮も今冬は新調することゝしたきを一寸御送り可
申上候 右取申まゐりは洗濯のため今少しおくり候○牛込区南榎
町二十七番地国史会予約出板の史料通覧（ツウサン）とりよせ候八円づゝ二回の
掛金の合計昨年十一月八円送りあり来五月又八円送る答なる
が右は果して約束まゝなりたるか如く今年一月より毎月一冊づゝ国より
宅へ送本しあるや否や 出来申取調の暇なく打過候 右は送本
の模様により来月の送金へ合せ候 夫に付潤三郎に取調べさせ

つば御送金いたしまで
お組り出来の時篤
一ども只今迄は及ばず
それよりの滞在費用丈
ふことゝ御座候
ならばよろしく 家ねし
今月は看護（カンゴ）なれど五月
又は岩本の女房にしらへ
ます 十日認 梅

免ギはせざれど此差こら錦し（小なし）銀の「メダイユ」のやうなもの
何か知らず𛀁し唐名話のやうなものも知らねど兎に角
見るに持たせなされまし差支も元の右の如二十二日此書
一日事務了りての書地は昨日来大風雨

村

二十五日

西上様

二十四日の御書状拝見仕り風雨のため少し延着いたしまし[illegible]
存ぜられ候 ○ 写生画事の事 近頃は中絶り ○ 画の事は
なれど無けれど無くてよろしく又其積りにて御含もあるべく[illegible]
も 画を持つとたれど急ぐ必要あらそれは夫婦など[illegible]
先づ五十より位の事まで最早先きが十年か十五年[illegible]
いづれ宜しき事と存じ五十までは[illegible]
それは馬鹿と存じ ○ 佐々木信綱とは親しき様なれどそれは
矢張蕎麦を付けたがる女子なさし向けかまきはまう 大抵くだら
ぬものを書いて来る事と存じ 写生派などに転ずれば或は
存じ 新派など家庭の娘なども才色兼備なるものは四十才の[illegible]

林
御新派の国分青厓 ○ [illegible]
[illegible] ○ [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

との縁組とけんのん至極と存り○勤向の近助説と無事に
ならば尤もなれど右重説とすれば人は老（オイ）とりふすあるを知
らざるものと存りそれも無理ならぬ事まで人は二十三十代の内
を命が無病ならやう考居るものより○無井といふもする〜
年の若きごろと母の此節撰（カク）とがけんのんなれど家のふいの
とりえよりも十八とか十れとかりふそば照合れそろ━━く在
居りつども（これが実際どんなものならんか想像出来ずより）性質温和なれど君なきかも知れずより○山岡
といふ内者なされ候ば○奴塚を二十二三の由これは生活（セイクワツ）
の單純（タンジュン）が保（タモ）てるかと和らひ又物乞まり（是上を大事にするとも出来ることと存り）ハ極めきらんとれらい
すれども父の生きて居るを隠分欠点よりも其上先方がめ

二十五日夜の御書状只今相見竹柳写してみゝ御枢
出しもの有之御枢出しの御名人と存り実物からん
の上の事ゆゑ人のおて来りのとちがひたしかと存り
佐々木帰京すりば同会ても御かりにならんでも
よろしく有仲のとりゆら矢張少し若すぎ候ども無
よう二つ位までも上もる处ちとは面白うござ存り
○久留米梅園長古井の御代りは御出少将とり
人今日中にても御一つ郎與読んだ少しづゝ直しも
中々面白く存り

[illegible]

二十八日出の御書状拝見仕候○醤油と酒と二升ほどあつらへ申候

ますます精出して可申上候○史料通覧とだまされ候様存候 封

中差金の訳は上方先方掛合ふたらば行違となり候○

所得金高届と明日まで期限きれ遅延せば科料との事にて

俸給　三千百五十円

年金　五百　円

右調出す　それを必ず東京へ知らせや否やも不明に候へども御申越

のは餘り少過ぎ申候に付何とか御工夫下され度○不用衣類

今日小包にて差出申候○来五日六日ハ招魂祭にて在宿

五月一日

西上

十日夜御来過の由失礼仕候○勘定の事委細
承り候○史料通覧の広告並ニ田中氏の意見は先方ニ掛合
候の上は何れともし又いづれ仕舞おきくれ可申 先方は先方の
見込も何も知(モト)之所○小金井よりもらひし巻煙草を切
鋏(ハサミ)はどんな大きな巻煙草にても潰(ツブ)れず切れ甚だ重宝
致し居候○小野敦善(アツヨシ)(故(モト)近衛師団軍医部長)殿
歸りて肺病にてなくなり候○今日八日も中の如くなり

五月二日

林

母上様

御辺の上より…御座
候○いろいろ御取付被下
候御新婦様何の事ニ候
ずこの塩梅にてはいかがにや
可申上候

十六日 林太郎

母上様

筆はよろしく候
に無ひてそれこそ拙
このなるやうある）
西洋雑誌ハ善ならば
二銭のわりに計算し
ほとし出なされ方

親王様誕生の由新聞に相見え候まだおほやけよりは
沙汰無之候〇二十九日の御書状並に佛書（フランス）正ニ受取申候
佛書ハ万国人の内の「巴里（パリス）案内（小）」「巴里医事」「仏国温泉誌（大）」
それならば御送なくともよろしくあり候報告（軍隊
衛生事件）と多分まだ読より大きなものならん申存候
「メダイユ」と序（ツイデ）に於苑にもまだ出ず候〇浴衣（ユカタ）出来申
の由承り〇史料通覧御掛合中の事も同様〇書の事は
当方も決して急ぎもせず先便申上候ハ何某（ナニガシ）を世子と談判する上
にて不熱心に掛合ふべきにあらずいつでも好しとふ道理を
申之と理屈を申上候のみ御急ぎには不及候

士

五月二日の御手紙二通並ニ写真一枚到着いたしれ ○

写真ハ例の郵便役人の悪意より梱と共ニ縦ニ押へ折り

ありて憎むべき悪風習ニ有之ト御写真ハいかやうもなるが

そ あながちならずとも醜き人にはあるまじく存候 財産家に

りて一條と当方にて世話になる事もあるまじとすれば 女が多

少贅沢風をもするより小生等のみと存り 係しいのは實驗

—

撃説を主張しても其の目撃したる今と先方承知なれば

是非なき事として今村との御聞合せなされずともよ

単に橋ホまで嫁を知りたるといふは好けれど周旋までの人ハ世

話するやう頼まれたるとすれば評判もの即ち売りあり

孫どもちゃんへいを着て無いのし ねとりふあり様子なり

いろいろ国史會だまされ一係相成いたし捨置き

でまりいたし候ーナー志あれど廣（告）文切抜と為換の受取書

と同封いたし候○今朝も日之朝は好天気なりし

めさましーがカーまけれど好いぞと存じ

五月五日

母上様

梅

…立寄り少々遅く相成（候）

…二里のところすこし流石

…ゆゑ私は女子供などに

午後九時に人も荷物も…

宅へ帰り申候○…

勇子も女子も事に於

…ても追ひて聞くに師団

験相済み申候

八日 拝

母上様

の御書状拝見いたし候 四日付の御書状拝見いたし候 是より先きゆうべ二枚の
官(軍医と監督と)は何處か 小包も到着いたし候 ○遊宮(ユキノミヤ)御誕生に就きては上京など
相成候哉 喇叭も何でも大きいの事と云ふものと相見え候 ○昨日と今日と招魂祭まで
皇后陛下の御為何时までも死ぬ 参場に詰めおれど今帰宅 一息つきし事に候 ○めさ候
ることまで軍医社会の士気 第一番やうくやと今朝京だし(半しおきて候 ○云る
のは位置を賭けても争ひ 山林次郎は洋行をとり消し文科大学の国文学の教授(講師
事に候 ○女だら一天隊 あたりの国文学とは縁の無き話にて今の文科は井上哲二郎に
知れいたし候 毎井は見所 気に入ればどうにもなる事とお見え候 ○賀古君山に書状を出
法らぬ事は遺伝(キデン)といふ上 れきりなどもまづ先方よりは書状も来らず中村の話あまり
うもあり候 部分は空をいひ ちずみ故申越す事もなきなあと存じ候 ○天気はやうや
き見え候 実際(ジツサイ)はどんなもの ーできうち存じ候 ○近日徴兵を見に唐津の方へ
おあるまじくいつしかもいつの

十二日の御書状拝見仕り○郁等も身やせたるなどと存ずれば文…
それは総務長及、専門学務局長、普通学務局長、大学総長（学部長）と云ふ…
の位置にて外よりは人をいれまじくみ自分の子分を内閣書記官長まで…
あるとかやらなる勢力のとてもなしと極め○吉川半七のかたに一々宮…
より金をはうりの事なりの毒と極め○帝国文学会を主人私…
と申す廉(ヤド)をはこともあつめなされてよろしく存じ○郷(クウ)方心理に…
講義を聴衆(チヤウシユウ)に分けるも学者の方も一ぱいに相成り○私の位置
この儀(マヽ)止めても大(タイ)した恥にはあらざる位置なれば妄(ミダ)りに動くことなく平
氣にて控(ヒカ)へ居るを妙策とす（文学の方も審美学の色々新しき論もあ
ましまずに出してちょめ書籍にいれすべく縦(タテ)に山流に研に乗取らん
来るものあるも根(ネ)を堅(カタ)めてあれば如何(イカ)ともすべからずと存ず）順風の
凡そ高ずて上るは一進一退の時は湊につかりてやすみ居るべし

）この度は軍礼式改正せられ
ありても敬礼に喇叭(ラッパ)を吹かぬ
なれど「海ゆかば」の譜にて
之を吹かる事なれば大切
保するものと存ず中央に於
やものと存ず不愉快極まる
仕末一々陛下御のとほり
りや否や知らねど左様人に似姿
癖など（ちぢつひ）左ほど却て
ば徒才收二郎を女ーたるや
小事大学と男の方は無論
加○独商油は法出ーーラトお

よう勝手に出らるゝを知らず、網をおそれて一所にあつまり捕へらるゝもあ

あり、陸軍の止められぬのも同じ事なりしとはおもしろけれど陸軍の網

を出れば訓練給になり収入がへる丈で何ともならず又かれこれ網を出ん

種々な株の網に入り居るが四方の網を児玉源太郎が振り居れば必ず

の入り居る網をば兩敬（アクティ）など振り居り○軍医学会雑誌に菊池

と保利（結核病）との出あたることを永々と書き情しき事と記しあり

医務局の書いたものより意味（イヤミ）極まると存候小池の奴らしくはなし長

谷川瓢長なるべしと存候○今日は晴天にて気張さく候いづれ近日

風邪になりて居るになるべく存候

五月十四日

林

母上様

別紙

中島の出宇しる三

…の御来状拝見仕候○軍医中にては私が知て居
…此頃は信ゆ忠護もあられから之太平の論居候
…の上存せられ候而長は今大陸にあるよくそれより宮
十九日の夜ゆくこの又は直ぐ帰京と相認め申候○松崎の話
候に泥の中にまある事積もくさるのみなれば
一日来上京の時とりもどし自分で出来ぬもの
に存候○即興詩人二三日内に大尾まで書く積りに候
一日のめきり草は路出しても申候 心配語は
しやすきたる書面に候○書の事 世上の外の心
配の事の意の方にても少しは考へくれども 世話して呉

卑しまれ良家の美しき子は容易く見られず

写つのしきあまり〇つまり人の話を聞き写真を見 金

心配せんよりは目をあいて見てあるくがよろしきやう

候へど存候ば一まづ可々

一月十一日夜酔中認

梅

母上様

其効ゟ書を送りましては□□の□

此方ゟ同人の書物四冊も差届有之なり○鴨の肉ヵ多少有

○小池二日夜着明五日朝出発の由ナリ同人はインフルエンザし

なるに熱なき故東京をたちしと云声はつぶれ咳嗽（ガイソウ）をいたし

ながら巡視をいたし有之のわけ故晩に吸入（キウニウ）をいたし居る

程にて富倉ゟ出京せず同人ゟ聞き取りたるところ

大略左の如し

一、菊池は辞表を出したれど先づ小川師団長の手元

まで押へ（オサヘ）させ置けり但し所詮（ショセン）つきて動あること

は出来ざるならん

二、谷口は医海時報にて狼藉（ロウゼキ）せしなる直りは進級

十中難し一月には中将も出来れど谷口は上げぬ

はいたしますまいと

京の時も読み入れ

小堀などゝ此度

東京より来る筈

したゞめられしとなる

同地に泊明日帰り

安有志家の並び

十時へ午後三時奥

ところ有奥平と

みし人をまてられ

別府の接待掛りも大當りのつもり
繁昌なる店の大黒柱たる娘なれは終日働し
仕合せ師団長も立食の馳走を出されたれど格闘長
に梅ケ谷大監督部長は何も出さぬ
次いでの馳走を出し〇西一年の上ゲに使ひ〇
新馬も大いなる黒馬なるを廻礼の尚すよする杜となる
く仕合せなり〇新聞も今年のは特別に書きしたら
つまらぬど三とはり立し上り一日延ばす

国上 様

〈竹内〉の饗応…十一月
…日…
…
…
…〇…
…要…

林

十八日の御書状並ニ免状為替の電報相届き申し候〇昭
生雑志の御寄贈に依托しの事も承り亀井伯年忌ニ就
ての事も承り〇瑞穂屋卯三郎の中状ては只今あきれ居
り〇此頃ハ福岡毎晩まゐりて此方よりは佛教を講釈
聞せ先方よりは洋学の事にてもはなしく相互に居る事を許す
やうに智識の交換をなし居り同人も立派な洋服を着
しほれど相変らずゆのみは裂けたるのが一枚のみにて候
居り候様子ニ候〇今日（日曜）も朝一寸小雨ふりて上り
それより天晴れ南風少し吹き室内にては暑からず寒くなく
居り申し候〇石見銀山の岸本雄平と申すもの在福岡県在く
石見人の労働社会（石炭ほり）の保険のため金を喜捐せよと乞
来しをことわりしに不平らしく帰り申し候〇馬（北斗）の応

[illegible]れしムも密の
回十材廿二ト[illegible]
[illegible]螺ト去騒しト法理の
[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]

篤と歌舞伎座会議れたる若し高田が金を出
すことと問題となるときは歌舞伎の話も出るやら
存じ申候 浪て等の名も出ることも可有之と存候 何と
か御用心すべき話らぬ 少くも歌舞伎の金
の出入は或る会社などに必要と存ぜられ候
高田より白し金のゆくへはつきりし居るやう致し候
高田より新年の書状は釣の事のみ申来りたれど
又○潤三郎より支那書籍着荷の事只今申来り

一月二十日 拝

母上様

事なれば芸妓倶楽部
好きのあるやら居やら知れ
の書状おそれ入り 小
。。。
也 仕舞ふ 書 最寄 上
家柄と顔良(カホカタチ)のよき家
ず顔は先便にやる
それとはおききに先つ昔
昔はこれ丈の事 うそは百度
なる甲斐も有之まじき
江戸さんの鳳凰女の説は元
戦争の時釜山(フサン)にて居る藝

二十日の御書状拝見仕り細川とかいふ小家の女のゆく家
も谷口の家に似たる話と存じ候（医事週報（川上の）に
第一師団の小池（これと落合となりしを忘れ居るとみえたり）休職
となりて第十二師団の長に帰るとか下馬評定まりし由に
候へ大抵十と山などの話を聞き居ることとて少しも信
ずる事なし ○先日内々日にかけし「ストリヒニネ」
中毒事件は軍医のまごつきしを不都合なりと評判
有りてさわぎ居るやうなれども少しも起ることは
之有りこんな事で部長がへこみ士官二三人の事で師団
長がへこんでは長官は一日もつとまらぬ事なり ○今日は
好天氣なれ
一月二十三日 鷗
去

ほどよりかも困り候
すまず賀古足の話は去
れよりは小池の話はたし
の話のみよりきたなれども
きにあらずいづれ垂ら
はならぬ事と松風ぶく
まつまで北方（十万分）に往きて映
の体日まで朝小池を送り申
林

加りの雨まけおお見仕候〇拾(?)苑入被出候由結構

こと存候宮奥さん手よりは立派に被存候〇笹井に

御上は真子上下懸隔(ケンカク)を厭ふか又は別に不満足の廉(カド)あり

て口實を構(カマ)ふるか不被(?)ニを長谷氏は今少し熱心にやつて円ま出頭すること

これわばだあと存り(長谷の奥さんは此苦労と存り)

保一笹井はあまり若過(ワカス)ぎる故吾方の辞退すれは九加承知

[illegible]り〇當地は昨晩大風にて急ニ寒中のやうなり今

日も風歌(?)ありや天晴れ空く遥上するやうなり今年の

九州の氣候は実に変ニ候事

四月十一日

拝

母上 筆[illegible]

[illegible]これは[illegible]ご話不申

お三[illegible]明日投函[illegible]

より本郷[illegible]も切[illegible]

拝

申中ニ付[illegible]いくらと届けあるか知らせて下さ[illegible]

上ヶ〇一昨日（二十四日）より今朝（二十六日）まで大風雨にてや

やく午後より静ヶ相成り 此一室はすぐ雨を打込み

〇病院長の馳走の勘定も済ませ金[illegible]

[illegible]弟子[illegible]神保の[illegible]三十円[illegible]七百円と[illegible]

[illegible]ありまして[illegible]三十円位あげてもよろしくとり 〇家主の

[illegible]まかなひも合せうまく入費は家主ニ謝礼三円を出しても

[illegible]の時代より一円位少き割ニ極好都合ニ

二十六日夕

石上様

めでたし

[illegible]

十九日の書状只今着拝見いたし候○めでたし草案移り
す夜五十枚ほどやうやく只今書き終候はゞこれと一しよ
郵便ニ出し候即興詩人の大尾までの分と新ニ買
審美書の始とを出し候何か詰まよみかゝりの
をも一つと存じ候へども間にあひ不申候○醤油新ニ調
の趣承り来二十五日送金のとき代價さし上可
申候○谷口ハ翻訳事始め取り係り候多分今
回は進級出来まじと存候○小池は兎も角も長女
候ば同人の知らぬ内ニ私共の位置のかへる事は十之内
二月末の会議まで好事も有之まじく候○明二十一日
大守ニ入るまでありからず但し本文とは衣紙一

故いふはせんやと去ら活り
り別ニ差支無之候 係し いつ
ば心持あしく候○昨日
天のとやかで降るか不知
村生
月十一日下附方千六百号なり
武法調べたりてば合り可